

農林水産物・食品の輸出拡大に係る物流分野の課題と取組

○産地が連携して取り組む大ロット・高品質・効率的な輸出を後押しするため、港湾や空港の具体的な利活用等の方策、輸出のための集荷等の拠点となる物流施設の整備・活用、海外におけるコールドチェーンの拠点整備・確保の方策を検討する。

課題

④ 《サプライチェーン全体》
 ・輸出農林水産物・食品の生産、流通に関するデータの蓄積が不十分
 → データを活用した効率的な物流サービスの提供が困難

①
 ・十分な量の農林水産物・食品が集まらず、出荷単位が小ロット
 ・荷姿バラバラ
 → コスト高、物流対応困難

②
 ・農林水産物・食品の輸出、受入に対応した物流施設が少ない
 → 輸出用の加工ができない、適切な温度管理ができない

③
 ・温度管理等のコールドチェーンの重要性に対する輸出先の認識不足、取組不足
 → 商品の劣化



生産者

国内

航空・空港・船舶・港湾

海外

消費者



取組

①
 ・生産者による出荷単位の大ロット化、外装等の標準化
 ・物流総合効率化法を活用し、輸送網の集約、輸配送の共同化、モーダルシフト等を支援

②
 ・農林水産物・食品の輸出の拠点となる港湾施設等の機能強化を推進
 ・拠点空港(成田空港等)の機能強化により、輸出促進に係る取組みを下支え
 ・高機能冷凍・冷蔵コンテナを用いた輸送等に係る実証事業を実施
 ・地方空港からの輸出力強化に向けた実証事業を実施

③
 ・官民ファンド(JOIN)によるコールドチェーン物流など、物流事業者の海外投資を支援
 ・我が国発のコールドチェーン物流サービスの国際標準等の普及促進

④ 《サプライチェーン全体》
 ・輸出貨物(農林水産物・食品)等に係るデータ連携基盤を構築